

# 京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

( 3 年計画の 2 年目)

## 1. 研究課題

アジアにおける人種主義の連鎖と転換

Chain Reactions and Transformations in the Meanings of Racism in Asia

## 2. 研究代表者氏名

竹沢泰子

TAKEZAWA Yasuko

## 3. 研究期間

2016 年 04 月 - 2019 年 03 月 (2 年度目)

## 4. 研究目的

従来の人種主義の研究の大半は、非「白人」であるマイノリティ集団を主たる研究対象としてきた。しかし、日本やアジアにおける人種主義は、そのような皮膚の色で分類する単純な構図には収まらない。例えば、「白人」ではない「日本人」が行為体となった場合、身体的に不可視の人々を、自己・他者の差異化によって人種化するプロセスとメカニズムが見受けられる。さらにそのような不可視の人々と「白人」に対する両義的なまなざしが交錯し、アジアにおける人種主義は屈折した複雑性を見せている。本共同研究では、他地域との比較を射程に含めながら、知識人言説、大衆文化、科学言説等を検証し、アジアにおける人種主義の連鎖と意味転換のプロセスとメカニズムを解明する。

Most of the existing literature on racism has dealt with people of color as research subjects. However, racism in Asia cannot be explained in such a color-based paradigm. For example, racism exercised by “Japanese” people, who are non-“whites,” involves the process of racialization of physically invisible, marginalized groups, by the distinction between the self and the other through political, economic, and legal systems. Furthermore, this intersects with the ambivalent gaze towards “white” Westerners, making racism in Asia multi-layered and complex. In this collaborative research project, we study the reception and transformation of racism in Asia, by examining intellectual and scientific discourses, popular culture and other related materials from a cross-regional perspective.

## 5. 本年度の研究実施状況

平成29年度で2年目を迎えた本研究会は、科学研究費基盤(S)と連動させながら、アジアにおける人種主義に主眼を置いた共同研究を進めている。本年度は、環太平洋における移民・難民をテーマとした共同研究、ヒトゲノム研究からわかるヒトの進化の歴史と集団差にかんする文理融合の共同研究などを実施した。さらに昨年度に刊行されたシリーズ「人種神話を解体する」(全3巻)のうちの第1巻・第2巻それぞれの出版記念セミナー(人文研アカデミー)を6-7月および11-12月に新丸の内ビル内の関連施設で開催し、東京圏においても研究の社会還元を努めた。また昨年度に締結したフランス国立社会科学高等研究院のTEPSISと人文研の学術交流協定に基づき、フランス人研究者5名(うち4名がTEPSIS)を迎え、日本人研究者と「人種概念の連鎖と変容」をテーマとして合宿形式の共同研究を行った。また本研究会のメンバーと海外3カ国の研究者とともに、アメリカ人類学会の部会において研究発表を行い、年度内の3月には、沖縄において、日本学術会議と共催で「DNA からみる集団と個」と題したサイエンスカフェを開催、また研究会メンバーの5名がパリに出向き、フランス国立社会科学高等研究院にて研究報告を行ったり、3名がアメリカ人研究者3名とともにアジア系アメリカ人研究学会において部会において発表したりする予定である。

## 7. 本年度の研究実施内容

2017-06-07 第1回 国際セミナー Plants, Pathogens, and Empire: Race Across the Pacific in the Early 20th Century 発表者 Jeannie N. Shinozuka University of Washington

コメンテーター 瀬戸口明久

2017-06-22 第2回 『人種神話を解体する:「血」の政治学を越えて』出版記念連続セミナー  
第1回 表象と呼称をめぐる問題 「血」の政治学を越えて 発表者 竹沢泰子  
呼称をめぐる議論と表象略史 発表者 岡村兵衛 歴史研究者

2017-06-29 第3回 『人種神話を解体する:「血」の政治学を越えて』出版記念連続セミナー  
第2回 映画表象にみる人種・ジェンダー・セクシュアリティ 1930年代の「混血児」表象:『港の日本娘』『からゆきさん』を題材に 発表者 高美智 法政大学  
沖縄という風景に抗して:『BLUES HARP』を題材に 発表者 菅野優香 同志社大学

2017-07-01 第4回 研究会 Causality, War Responsibility, and the Historical Subject in Postwar Japan(戦後日本における戦争責任、因果関係と歴史主体について) 発表者 小山ひとみ 龍谷大学

The End of Empire and the Re-ethnicisation of Nations in the Indian Ocean Region: Examples from India, Sri-Lanka, Malaysia and Mauritius 発表者 Crispin Bates

## The University of Edinburgh

2017-07-06 第5回 『人種神話を解体する:「血」の政治学を越えて』出版記念連続セミナー  
第3回 「混血」から歴史を読み直す 植民地統治下の白人性と「混血」:英領インドの事例から  
発表者 水谷智 同志社大学  
アメリカのスポーツと「混血」 発表者 川島浩平 武蔵大学

2017-07-13 第6回 『人種神話を解体する:「血」の政治学を越えて』出版記念連続セミナー  
第4回 自分らしい生き方を求めて「ハーフ」の若者たちの自己像:日本とパキスタンの国際結婚の子どもたち 発表者 工藤正子 京都女子大学  
在日「ダブル」の歴史観:加害/被害の二元論の超克 発表者 李洪章 神戸学院大学

2017-07-21 第7回 文理融合研究会 Jon Marks 氏の仕事について 発表者 瀬口典子 九州大学  
Can Genomics Keep its Promises? 発表者 Jon Marks University of North Carolina  
Natural Positive Selection and Human Phenotypic Variation 発表者 中山一大 東京大学

2017-07-22 第8回 文理融合研究会 Poh-San Lai 氏の仕事について 発表者 徳永勝士 東京大学  
Next Generation Genomics Studies and Population Data 発表者 Poh-San Lai National University of Singapore

2017-07-27 第9回 『人種神話を解体する:「血」の政治学を越えて』出版記念連続セミナー  
合評会 『人種神話を解体する:「血」の政治学を越えて』の合評会 コメンテーター 岩淵功一  
Monash University

コメンテーター 成田龍一 日本女子大学  
コメンテーター 川島浩平 武蔵大学  
コメンテーター 内堀基光 放送大学  
コメンテーター 田辺明生 東京大学  
コメンテーター 竹沢泰子

2017-09-08 第10回 研究会 1992年ロスアンジェルス蜂起をめぐる表象の政治学 発表者 土屋和代 東京大学  
誰が生きるべきか、誰が死ぬべきか:北海道開拓植民地主義における労働力と人種の問題をめぐって 発表者 平野克弥 University of California, Los Angeles

2017-10-14 第11回 研究会 Timothy Caulfield氏の仕事の紹介と文献紹介 発表者 竹沢泰子

The New Genetic Revolution: Emphasizing Population or Individual Health? 発表者 Timothy Caulfield University of Alberta

2017-11-10 第12回 『人種神話を解体する: 科学と社会の知』出版記念連続セミナー 第1回 人種研究と日本の人文科学 日本の考古学と人種研究 発表者 坂野徹 日本大学  
日本近代の民衆統治と科学的人種主義 発表者 関口寛 四国大学

2017-11-24 第13回 『人種神話を解体する: 科学と社会の知』出版記念連続セミナー 第2回 ヒトの多様性に関する最新の成果から 人類集団遺伝学にとっての“集団”とは何か? 発表者 太田博樹 北里大学  
「人種」優劣と植民地主義に繋がった自然人類学 発表者 瀬口典子 九州大学

2017-12-08 第14回 『人種神話を解体する: 科学と社会の知』出版記念連続セミナー 第3回 人種研究とマイノリティ 身体と贈与と共同体の生成: インドの事例から 発表者 石井美保  
ハンセン病者のアナキズム: フィリピンでアメリカの植民地秩序を変える 発表者 日下渉 名古屋大学

2017-12-16 発表者 長志珠絵 神戸大学  
発表者 Silvia Falconieri フランス国立社会科学高等研究院  
発表者 関口寛 四国大学  
発表者 Jean-Frédéric Schaub フランス国立社会科学高等研究院  
発表者 竹沢泰子  
発表者 Anne Lafont フランス国立社会科学高等研究院  
発表者 田辺明生 東京大学

2017-12-17 発表者 太田博樹 北里大学  
発表者 Sarah Abel フランス国立社会科学高等研究院  
発表者 Arnaud Nanta フランス国立科学研究センター

2017-12-22 第15回 『人種神話を解体する: 科学と社会の知』出版記念連続セミナー 座談会 人種集団の分類とカテゴリーをめぐって コメンテーター 太田博樹 北里大学  
コメンテーター 篠田謙一 国立科学博物館  
コメンテーター 田辺明生 東京大学

コメンテーター 徳永勝士 東京大学

コメンテーター 坂野徹 日本大学

コメンテーター 竹沢泰子

2017-12-24 第 16 回 研究会 博物館におけるマイノリティ表象の可能性:社会的差別と普遍的  
人権のあいだ 発表者 吉村智博 大阪人権博物館

移民受入論が内包する人種主義:排日移民法後のメキシコ人労働者をめぐる議論から 発表  
者 徳永悠

2017-12-27 第 17 回 研究会 健康、医療データベースの基盤整備と活用の道筋 発表者  
川上浩司 医学研究科

乳癌の発生動向と最近の乳癌診療の進歩 発表者 戸井雅和 医学研究科

2018-01-21 第 18 回 研究会 国境を越えた被差別部落民の移動と「人種化」の連鎖 発表  
者 関口寛 四国大学

東南アジアにおける植民地統治とカテゴリー:シンガポールを事例として 発表者 鬼丸武士  
九州大学

2018-03-11 Three dimensions of race, Jean-Frédéric Schaub Scholarship and  
activism 発表者 竹沢泰子

Anti-Racism and Spiritual Universalism: Connectivity and Diversion of  
Transnational Nationalisms of Japan and India in the Late Nineteenth and Early  
Twentieth Centuries 発表者 田辺明生 東京大学

Anthropologie coloniale, politique aborigène et racisation des populations à Taiwan  
du temps de l'empire japonais (1895-1945) 発表者 Arnaud Nanta フランス国立科  
学研究センター

Cultural and Social Factors Influence on Human Genetic Diversity 発表者 太田博  
樹 北里大学

The Blurry Edges of a 'Hard' Science 発表者 Sarah Abel フランス国立社会科学高等  
研究院

Disposition and transformation of discourses on 'international marriage':  
Understanding theories on race and racialization in modern Japan 発表者 長志珠  
絵 神戸大学

European law versus "race" (19th-20th centuries). Issues, perspectives and  
contributions of the legal history 発表者 Silvia Falconieri フランス国立社会科学高  
等研究院

2018-03-12 Translating and Transforming ‘Race’: Early Meiji Period Textbooks

発表者 竹沢泰子

Visual Cultures of Race in the French Enlightenment 発表者 Anne Lafont フランス

国立社会科学高等研究院

Racialization and Global Development of Technology of Governance: Analysis of Buraku Issue in Japan 発表者 関口寛 四国大学

Is race appropriate to describe social domination in colonial Latin America? 発表者

Jean-Frédéric Schaub フランス国立社会科学高等研究院

#### 8. 共同研究会に関連した公表実績

学術書シリーズ『人種神話を解体する』(編集責任 竹沢泰子)(東京大学出版会、2016

年)・第1巻 斉藤綾子・竹沢泰子編著『In(Visibility):可視性と不可視性のはざままで』・第

2巻 坂野徹・竹沢泰子編著『Knowledge:科学と社会の知』・第3巻 川島浩平・竹沢泰子

編著『Hybridity:「血」の政治学を越えて』 Trans-Pacific Japanese American Studies:

Conversations on Race and Racializations, ed. Yasuko Takezawa and Gary Y.

Okihiro. University of Hawai'i Press, 2016. 英文学術雑誌特集号 Japanese Studies

35:1, Special Issue: Rethinking Race/Racism from Asian Experiences (Koichi

Iwabuchi, ed.) “Human Genetic Research, Race, Ethnicity and the Labeling of

Populations: Recommendations based on an interdisciplinary workshop in Japan”

(Yasuko Takezawa, Kazuto Kato, Hiroki Oota, Timothy Caulfield et al.) BMC

Medical Ethics, 2014. “Highly Accessed”に認定。『人文學報』100号(特集:差異の表

象)竹沢泰子編、京都大学人文科学研究所、2011年。 Racial Representations in Asia,

ed. Yasuko Takezawa. Kyoto University Press, 2011. 他、報告書20冊

## 10. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数	参加人数				延べ人数			
		総計	外国人	大学院生	若手研究者	総計	外国人	大学院生	若手研究者
所内	1	4 (2)	0	0	1	19 (10)	0	0	8
学内	2	5 (2)	2 (2)	2 (2)	0	7 (3)	3 (3)	3 (3)	0
国立大学	7	10 (0)	3 (1)	0	2 (1)	26 (3)	3 (1)	0	2 (1)
公立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0
私立大学	15	19 (7)	1	1	3 (3)	28 (9)	2	1	3 (3)
大学共同利用機関法人	1	1	0	0	0	1	0	0	0
独立行政法人等公的研究機関	1	1	0	0	0	3	0	0	0
民間機関	1	1	0	0	0	3	0	0	0
外国機関	6	8 (5)	5 (4)	1 (1)	1	9 (5)	6 (4)	1 (1)	1
その他	3	3	0	0	0	3	0	0	0
計	37	57 (17)	11 (7)	4 (3)	7 (4)	99 (30)	14 (8)	5 (4)	14 (4)

※( )内には、女性数を記載

## 11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

参加研究者がファーストオーサーであるものを対象

総論文数	4
国際学術誌に掲載された論文数	3

※( )内には、拠点外の研究者による成果(内数)を記載

### 13. 次年度の研究実施計画

5-6月 出版記念連続セミナー(3回) 7月 歴史文化班研究会「移民・難民」びわこ合宿(2回) 9月 (In)Visibility 国際セミナー(1回) 10月 人文研アカデミー「新・可視性と不可視性のはざままで」公開セミナー(1回) 12月 フランス TEPSIS との合同研究会(2回) 1月 ヒトの多様性について学術会議と共催シンポジウム(1回)など

### 14. 次年度の経費

国内旅費	研究会参加費	開催回数 15 回 国内出張旅費(延べ 22 人)	支出予定額 450,000 円
	一般旅費	国内出張旅費(延べ 2 人)	支出予定額 100,000 円
合計			550,000 円

### 15. 研究成果公表計画および今後の展開等

論文集(出版社確保済み) フランス国立社会科学高等研究院 雑誌 Politika 特集号(フランス語) 人文学報 特集号など